

看花

花を^{はな}看^み

城貞（藤の花）

其八

其の八

季夏送春尋異華
向葵紅槿見葩芽
通宵閉葉合歡木
八月閑庭梔子花

季夏^{きか} 春を送り異華^{いか}を尋ぬ
向葵^{こうき} 紅槿^{こうきん} 葩芽^{はが}を見る
通宵^{つうしょう} 葉を閉す合歡木^{ごうかんぼく}
八月^{はちがつ} 閑庭^{かんてい} 梔子^{しし}の花^{はな}

七月となり、かぐわしい花の咲いた春を見送り、めずらしい花を尋ねて歩きまわる。

ひまわりや、赤色のむくげの花もさいている。

ねむの木は、めずらしくて、夜になると夜通し葉をとじている。

やがて、八月となり、しずかな庭にくちなしの花が咲くのを見る。



季夏Ⅱ夏七月。異華Ⅱめずらしい花。向葵Ⅱ向日葵。ひまわり。紅槿Ⅱ赤色のムクゲ。葩Ⅱ花。通宵Ⅱ夜どうし。合歡Ⅱねむの木。閑庭Ⅱしずかな庭。梔子Ⅱくちなしの花。

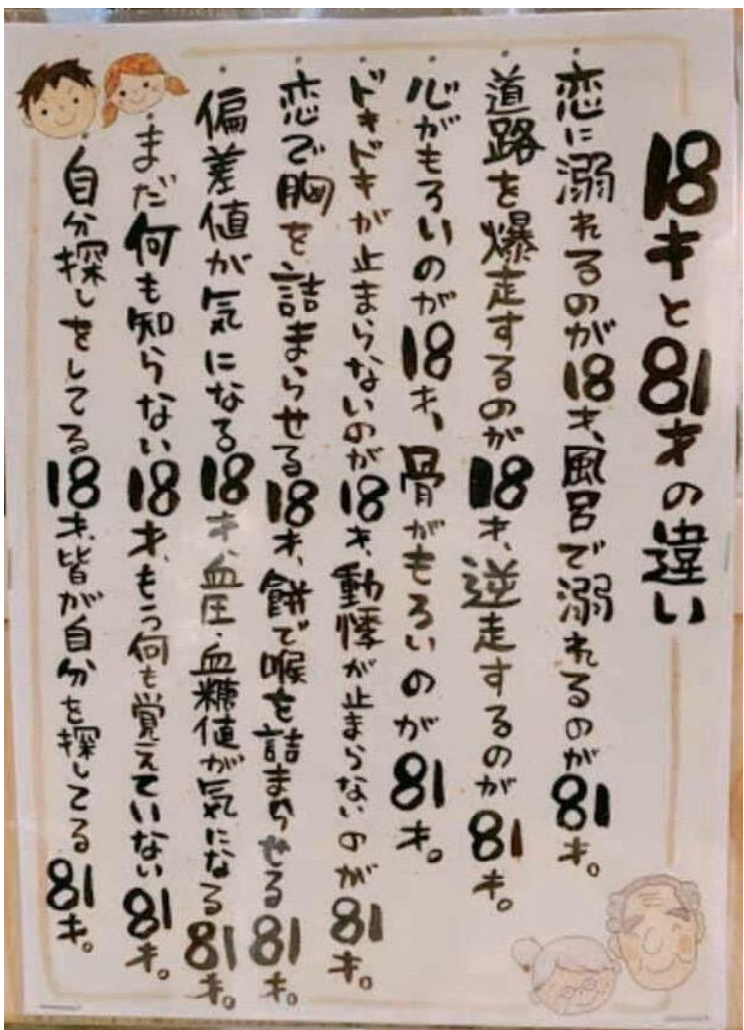
温海の伝統こけし工人後継者、語る

「伝統こけし展」が6月7日から22日まで、東田川文化記念館ギャラリー1藤で開かれ、14日に続き2回目の「ギヤラリートーク」が21日、行われました。

温海の伝統こけし工人である阿部進矢さんの後継者として、修業

人である阿部進矢さん

敬老会の祝辞で「18歳と81歳の違い」を話したら、会場から笑いが生まれ好評でした。ご紹介くださった方に感謝です。



8月末に鳴子のこけし祭りに一緒に行こうとなり、他の工人に紹介していただいた。実際には10月から、毎日のように通い始めてやっている。

最初はカンナの使い方を見せていただいたて、後は師匠を見よう見まねで制作している。

師匠はやさしいので、いろいろ教えてくれる。去年の暮れから作品を頒布し始め、今に至っている。」と語りました。（右写真の下が津田隆さん。左写真は津田隆さんの作品）



入院は10日間

【さて、話は代わっ

て俺の入院だが、11日の入院で13日の手術だとのTEL有】が既報であるが、21日3時前に家についたから10日間の入院だったです。

▲11日手術についての説明があり。それにより、全身麻酔で6〜7時間を要する手術であること。腹に穴を7つ開ける事。医者3人で行うんだという事だ。

▲続いてその危険性についての説明があった。つまりは、腎臓にメスが届く前にこんな危険があるんだと、これでもかこれでもかとあるのだった。付き添いからは、それを知っておいて欲しいんだと。

▲13日の朝8時半で手術室へ。即刻まな板にガス麻酔だ・を聞いている内に眠ったな。気付いた時は3時を超えていたようだ。だから、



7時間近い時間を要する大手術だった事になる。手術医の他に麻酔医など何人が関わってしてくれた事か。ただただ感謝のみです。

▲手術室から集中治療室へ。ここに一晚。何処にも痛みはないが、頭はハッキリしていない記憶も一晩で終わり。

14日に一般病室に。体力が付くように歩けると言う。イヤ〜ホント。

30も足を動かしたかです。ひーひーなのだ。この日のうちに普通に歩けるようになったが、体力が無いという事は、

尻が出せない・水を飲むのにぐびぐびつかずにくびで終わりなんだっけ。術後の痛みはなく、飯はうまい。

▲4日目で全管(くだ)はずれる。血液検査が良ければ次の日退院になると看護師の話。そのOKが2日遅れたのだ。

▲でも順調や。汗を知らない10日間。家に帰れば汗に挑戦だ。(石川)